

## 第10回地震マイクロゾーンネーションとリスク軽減に関する国際ワークショップ開催 趣意書

地震動の性質を解明し地震災害を軽減する為には、土木・建築構造物の耐震化の為の研究・普及の努力に加えて、それらが立脚する地盤における地震動の性質とその原因の解明が不可欠である。構造物に入力する地震動には、その生成・伝播・増幅過程の影響が総て含まれて居る。それが故に、地震学等の理学側と地震工学・地盤工学等工学側と、双方の研究者・実務者が各地域特有の問題・経験を持ち寄って議論・共有する事が必要である。また、地震災害の多くが開発途上国で発生していることから、先進国のみならず開発途上国の研究者も参加した国際的な学术交流の場が必要である。この必要性と従来の経緯を鑑み、(社)日本地震工学会と(独)建築研究所は本国際ワークショップを共同で主催する。

本国際ワークショップは、スペイン・メキシコ・フィリピン・ベネズエラ等各国の当該分野の研究者と協力して、交流の強化と共有する情報の高度化を促進すること、本分野の国内の若手研究者等に対して、国際学会での発表や他国の指導的研究者の発表を聞く機会を与えることを目的とする。また、本分野で、日本のイニシアティブの確立も考慮されている。

共催：一般社団法人日本地震工学会、独立行政法人建築研究所

後援（予定）：社団法人日本建築学会、公益社団法人土木学会、  
一般社団法人日本機械学会、公益社団法人地盤工学会、  
公益社団法人日本地震学会、地域安全学会、日本活断層学会、  
社団法人物理探査学会、日本自然災害学会

開催時期：2012年2月28日～2012年3月2日

開催場所：つくば国際会議場エポカル <http://www.epochal.or.jp/eng/index.html>

プログラム：

2012年2月28日～3月1日 ワークショップ

(口頭・ポスター発表、ブース展示)

2012年3月2日 フィールド・エクスカージョン

発表内容：

地盤振動・地震動を主なターゲットとする地震工学、

地震マイクロゾーニング手法

物理探査技術を含む地震ハザード・リスク評価技術、

地震災害軽減・管理手法

その他の都市で利用可能な他の研究分野

国際ワークショップについて：

本国際ワークショップは日本・スペイン中心の共同研究を基盤として1992年に開始され、上記の国々の交流により継続し、ほぼ毎年開催している。

第1回(1992)グラナダ(スペイン)、

第2回(1995)グラナダ(スペイン)、

第3回(1997)アグアドウルセ(スペイン),  
第4回(1998)葉山(日本),  
第5回(1998)長津田(日本),  
第6回(2000)箱根強羅(日本),  
第7回(2008)名古屋(日本),  
第8回(2009)アグアドウルセ(スペイン),  
第9回(2010)クエルナバカ(メキシコ)

開催までの日程(暫定):

1st circular: 2010年11月

2nd Circular: 2011年3月

アブストラクト締切: 2011年9月31日

早期登録締切: 2011年11月30日

ショートペーパー締切: 2012年1月31日

プロシーディングズ:

参加者は、Abstractに加えて、6~8頁程度のShort paperを提出する。AbstractはProceedingsとして印刷し、pdfファイルとしてショートペーパーを収録したCD-ROMと共に国際ワークショップ参加者に配布する。